

## 第20回 可児とうのう病院地域連絡協議会 議事概要

- 【日 時】 令和6年3月14日（木） 14時00分～14時30分
- 【場 所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院 講義室（大）
- 【議 題】 1. 今後の当院の方針について  
2. 自由討議
- 【出席者】 宗宮 優 （医師会／可児医師会長）  
久保田 芳則（行政・県／可茂保健所長）  
梅田 浩二 （行政・市／可児市こども健康部長）  
曾我 巨樹 （利用者／自治会長）  
村瀬 孝彦 （利用者／自治会副会長）  
梶田 泰一 （院長）  
伊藤 貴彦 （副院長）  
後藤 信二 （事務長）  
近藤 清典 （看護部長）  
樋口 直哉 （総務企画課事務長補佐）

### 【議事録】

#### ○議題1

当院の今後の方針について

#### 【梶田院長】

可児とうのう病院 院長の梶田でございます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。当院は地域密着型の病院という理念を持って運営を行っています。我々内部が努力していても見えていない部分があるかと思ひます、皆様の外からの視点で貴重な意見を賜ればと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

（今後の当院の方針について）

#### 【梶田院長】

今後の当院の方針について私からご報告させていただきます。

前回、外科の診療体制についてご意見をいただきました。まず、2月に常勤医師が開業されるため1名退職いたしました。その後任として4月から関市の中濃厚生病院の副院長 井上先生が常勤医師として赴任していただくことになりました。外来については岸田名誉院長、瀬古医師とともに体制が整いました。手術については、無理のない範囲で可能な手術を行ってまいります。

その他では、私の同級生である名古屋大学形成外科の亀井教授が3月で退官となるため、4月から第1、3、5の火曜日にて外来を行っていただきます。亀井先生は再建外科医として乳房の再建等でご高名であります。医師会の事務局にもご

協力いただいて、可児市の開業医の皆様に掲示板にて周知させていただきました。

内科についてですが、当院ではご高齢の患者が多く、複数の病気を併発されている方が多く、藤田医科大学の救急総合診療科から非常勤として週1回勤務していただきましたが、週3回勤務し内科系についても充実する予定です。診療体制については以上のとおりです。

その他として、来年度診療報酬の改定がありあます。今回の診療報酬改定で今後の日本の医療の在り方について厚生労働省の医療の方向性が見えてまいりました。当院としても、状況の変化に応じて対応していきたいと思えます。

当院では経営分析委員会を行っておりますが、将来構想、経営戦略の4月からリニューアルして、若い先生にも入ってもらい中長期的な取組を考えていきたいと思えます。

**【梅田健康福祉部長】**

院長先生から充実した診療体制を構築していただけるとお聞きして、行政として心強く思いました。来年から医師の働き方改革が始まりますが、今後の病院経営について影響があれば教えていただければと思えます。

**【梶田院長】**

当院は、医師の働き方改革についてですが、当院の医師は時間外が多くないため80時間を超える医師はおりませんので問題ありません。

また当院は大学医局から多くの医師を派遣していただいております。大学医局の働き方改革の影響で、医師の派遣ができなくなるのではないかと心配しておりました。特に心配していたのは、夜間の救急担当医師の派遣です。幸い、労働基準監督署の宿日直許可が下りたので、現在の状況は維持できる予定です。働き方改革の影響は今のところは当院に影響はないです。

(自由討議)

**【後藤事務長】**

いつも可児とうのう病院の支援を賜りありがとうございます。事務長の後藤と申します。この度、栄町の村瀬副自治会長より防災訓練の開催についてご質問いただきました。コロナ禍前は毎年11月頃、地域住民の方にも参加していただき、防災訓練を行っていましたが、ここ数年はコロナ禍であったため開催を見合わせておりました。来年度については、以前のような形で11月頃に開催を検討してまいりますので、正式に決定しましたらご案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。

**【久保田保健所長】**

JCHO ニュースの40号で能登半島地震における中京病院のDMATの活動が掲載

されておりますが、岐阜県も DMAT とは別に行政の支援という目的で保健所の職員が被災地に派遣されました。私も第3班で珠洲市の珠洲総合病院に派遣で行き大変勉強になりました。珠洲総合病院、ライフラインの確保、職員の確保等、様々な問題を抱えながら対応されていました。

この地域であれば可児とうのう病院が基幹病院となりますので、ライフラインの確保、職員の確保、診療体制等、中京病院からノウハウを共有して、災害に強い体制を構築していただければと思います。

**【梶田院長】**

ご意見ありがとうございます。当院は派遣できる医師がおりませんでしたので、派遣について協力することができませんでした。中京病院は DMAT があり災害時には派遣を行っておりますので中京病院から学んでいきたいと思います。

当院も災害があった場合、公的病院として市と連携して対応していきたいと考えております。

**【宗宮可児医師会長】**

能登半島の地震のような規模の災害があった場合、医師会としても可児市と連携した体制作りを検討している。可児とうのう病院をはじめ市内の病院も含めた体制作りのため今後ともご協力をお願いしたい。

**【梅田健康福祉部長】**

能登半島地震ではライフラインが寸断されて、電気や水道が止まり、職員自身も被災し勤務ができない、退職したい等、医療従事者の確保も問題となっている。

夜間であったり、従事している方が少ない時間に災害が発生した場合の対応等、様々なシュミレーションが想定されるが、医師会や医療機関、市民の皆様と協力して進めていきたいと思います。

(終了 14:30)